

事業の名称等

2023 年度
かがやけ☆あいちサスティナ研究所



ねらい

- 持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育む。
- 参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促す。

学習者の状況

- これまでに習得してきた知識やスキルを社会でどのように活用していくか、まだ具体的なイメージがわいていない様子である。

成果指標

- 持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それを活用する能力を育むことができたか。
- 参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促すことができたか。

取組の内容

工夫

学習者の反応

学習の効果&主に育まれる力

- 1 開所式で、学生、パートナー企業等との顔合わせ、活動や課題の説明等を実施（6月）

- 愛知県知事の激励により士気を高めるとともに、学生、パートナー企業、ファシリテーターとの顔合わせ、活動や課題の説明等を行い、研究所活動を円滑に開始できるような機会を提供。



- 最初は不安だったが、学生同士で交流を行うことで、モチベーションの上昇や関係構築につながった！



- 全体のスケジュールを理解し、期間内にやるべきことを順序立てて具体的にイメージできた。

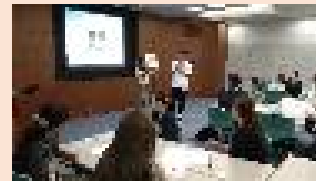


- 2 環境問題やSDGs、課題解決に関する基礎講座を受講（7月）

- 今後の環境課題研究を行うに際し必要な知識や理解を深めるため、SDGsや課題解決の考え方の参考となる講座を実施。
- 昨年度の修了生から経験談や心構えを聞くことで、全体の活動のイメージをサポート。



- 環境やSDGsに関する知識が深まった！



- これから解決策を検討していくために必要な知識やスキルを習得した。
- さらに必要なことについては自ら学習するなど、主体性を育んだ。



- 3 研究所活動として、企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッション、チームミーティングを実施（7月～11月）

- ＜課題研究＞
企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッションにファシリテーターを交えることで、学生のインプット及びアウトプットが大きくなるよう橋渡し。



- ＜チームミーティング＞
解決策を作り上げるためにチームミーティングを実施。
適切なタイミングでファシリテーターが助言を行うことで、学生の考えをうまく引き出し、議論が円滑に進むよう支援。

- 現場に行くと、企業が実際に行っている取組を体感できる！



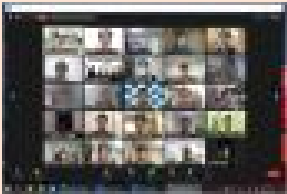
- チームでミーティングを行い、解決策に向けた議論を深めていった。
時間が足りない！



- 実際に現地を調査し、企業担当者と議論することで、課題の意味を深く理解し、課題の解決がどのように持続可能な社会の実現につながるかに気づいた。



- チームミーティングを重ねることで、解決策に向けた議論を深めると同時に、様々な視点で物事を考える力が育まれた。

4	成果発表本番に向け、中間発表会を開催（10月）	○成果発表会に向けたプレゼンテーション練習を実施し、出席者からのフィードバックを踏まえ、研究成果のブラッシュアップ等を促進。 ♡ 共感・納得 ♡ ゆさぶり	中間発表会是他チームからの意見やプレゼンテーションの方法など、成果発表会に向けてとても参考になる！ 	○他者の意見により、新たな課題に気付くことができた。また、相手に分かりやすく伝える能力が育まれた。 
5	成果発表会・修了式で、研究所活動の成果である解決策を提案（12月）	○提案した解決策をパートナー企業が評価。 ♡ 成果実感 ○審査員による審査と合わせてオーディエンス賞を設け、来場者の参加性を高めることにより、来場者に伝わりやすいプレゼンテーションを行うよう学生に促進。	○チームみんなで考えたアイデアや発表の工夫がパートナー企業や来場者に伝わるといいな！ ○大勢の前での発表は緊張したが、今まで取り組んできた成果を練習したとおり発表できた！ 	○企業からの評価や審査員からの講評を受け、これまでの活動を振り返ることで、課題解決に必要なスキルや他者への伝え方の改善点を見つけることができた。 
6	県内の大学等で出張成果発表を実施（12月～2月）	○学生自身の知識の習得や理解の増進、チーム内での研究だけにとどまらず、これまでの研究成果を発信。 ♡ 共感・納得 ♡ 成果実感	ともに行動する仲間を増やしたい！  	○研究成果を広く発信することで、自身の活動の成果を実感し、継続的なエコアクションの実施につながった。 

■2023 年度かがやけ☆あいちサスティナ研究所

パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施し解決策を研究する。解決策を企業側に提案し、活動の成果を広くPRする。



学習者の変容

【学生へのアンケート結果より】

- ・問題発見能力と課題に対しての理解力が身についた。会議の経験やプレゼン能力が成長するきっかけにもなり、発表することへの自信につながった。また、企業が新しい企画を考えるときの雰囲気や企業の働き方を知ることができ、非常に勉強と成長ができるプログラムになった。
- ・主体的に参加することの重要性を学べた。また、ファシリテーターや企業など、学生とは違った視点からのアドバイスをもらうことができて、多角的に物事を見る力も伸びたように思う。

【パートナー企業へのアンケート結果より】

- ・弊社でも課題と捉えつつも対策が弱い・できていない事項について、若者世代のリアルな意見や具体的な改善提案をいただくことができたことが勉強になり、良かった。

【ファシリテーターへのアンケート結果より】

- ・学年や学部が違う学生たちが同じ目標に向かって話し合うことに意義は大きいと感じている。
- ・プログラムの中で企画したことを実施して検証できたことが良かった。実際にアクションを起こすまでのボリュームと実施してみる大切さを学生たちが実感できた。（PDCA サイクルが回せた）

成果と課題

【成果】

- ・企業から提示された課題の解決策を研究し、提案することで、知識やスキルを習得するだけでなく、活用する能力が育まれた。
- ・企業によっては提案された解決策を採用し、実施する見込みである。
- ・学生の柔軟な発想や考え方を取り入れることができ、本業とのシナジーにもなる。
- ・前年度（2022 年度）の課題である「学生が課題解決に向けた活動を実施したり、チーム間での交流・意見交換を行ったりするための機会をより充実させることで、熟度の高い提案を行えるようサポートしていく必要がある。」に対応するため、「SDGs AICHI EXPO 2023」の県ブースにおいて、学生が課題解決に向けた活動を実施するための拠点を設置した。

【課題】

- ・引き続き、学生が課題解決に向けた活動を実施したり、チーム間での交流・意見交換を行ったりするための機会をより充実させることで、熟度の高い提案を行えるようサポートしていく必要がある。